

Innovation Times

# SDGs 横浜の挑戦

Vol.11

企画・制作＝神奈川新聞社 企画推進室



## 「私たちの話を聞いて」

私たちの話をちゃんと聞いてください。8月1日に横浜市中区の横浜メディア・ビジネスセンターで開催された「環境絵日記こどもサミット」では、全国から集まった子供たちが、未来の社会について自由な発想で提案を行った。なかには大人の行動を促す痛烈なメッセージもあった。

（春名 義弘）

サミットに集まったのは、北は北海道・下川町から南は那覇市までの小学生8人。冒頭の言葉は、子供たちによる「SDGs共同宣言文」だ。

山口県防府市の小学5年、吉永羽那さんは「潮だまりには、いろんな生き物がいるけれど、ごみも落ちていて、このままだと魚たちがすみにくくなってしまふ」と心配し、絵日記を作成。ポイ捨てをする大人にタメ出しをした。

高知県南国市の小学5年、杉山大起さんは、自宅で行っている太陽光発電の発電量を月ごとに調査。最も多いのが真夏の8月ではなく、昼間の時間が長く晴天の多い5月だったことを突き止めた。「太陽光を上手に利用すれば、省エネが進むのでは」と主張した。

地元・横浜市の中学1年安原葵さんは、暑い日には日傘

### 環境絵日記こどもサミット

## 未来の社会 自由に語る



博 になり、災害時には自分の居場所を知らせてくれるドローン「ミストロン」を思いつき、説明、「ぜひ実現してほしい」とアピールした。

そのほか、「自然、思いやり、笑顔のあふれるまちに」「すごく高いタワーでまちの良さを多くの人に知らせたい」「再生可能エネルギーを

**悩み引き出す 居場所カフエ**

虐待や貧困など困難を抱える高校生たちの支援を目的とした「居場所カフエ」は、全国で40校ほどに増えている。家でも教室でもないサードプレイス。用意さ



高校生に人気の飲み物は「居場所カフエが教育を愛さなくて」というシンボジウムが都内で開かれ、約150人が熱心な議論を繰り広げた。冒頭の質問の答えは「具だくさんのこの日は、2012年に国内で初めて導入した大阪府立西成高校」となりカフエと、14年に始めた東立田奈高校「ぴっかりカフエ」の東西関係者が実践報告。「10代後半に対する社会の目は意外と冷たい。居場所カフエが、セーフティネットの網の目を少しでも埋める存在になれば」という言葉が印象的だった。

（SDGs横浜の挑戦）編集長 春名 義弘

## 脱炭素化に向け コンソーシアム

ヨコハマSDGsデザインセンター

ヨコハマSDGsデザインセンター（DC）は、脱炭素化に向けた製品やサービス、取り組みの実現、普及を図る情報交換の場として、「環境コンソーシアム」を始動させた。

SDGsの課題「環境」社会「経済」のうち「環境」にスポットを当て、同DC会員（必要性和関心）

とニーズ（技術や製品）を共有し、マッチング（連携）によりビジネスチャンスを生み出さすことを目的としている。現在33団体51人が参加している。

同DCでは、企業間のマッチングなどの支援を行い、金銭的な支援は基本的には行わない。具体的なプロジェクトに進むものについては別途、ワーキンググループを設置する。

既に3回の会合を開き、①住宅・建築物などの省エネ対策②廃棄物や食品ロス対策③事業者・市民（子供向け）などの取り組み支援④減・脱プラスチックのサプライチェーン・製品開発の四つの検討ワーキングを設置した。

コーディネーターの河野有吾さんは「会員の持つニーズとニーズが一覧で見られるものをまずは作りたい」と話す。マッチングに向けて情報集積を進め、コミュニケーションの活発化を図ることにしており、コンソーシアムへさらに多くの参加を呼び掛けている。（春名 義弘）

### 課題解決のきっかけに

#### ダイバーシティ連絡協がイベント 研究・技術へ参加者コメント



ダイバーシティ（多様性）を推進する産学官ネットワーク「ダイバーシティ連絡協議会KT」は7月26日、「百人百様×サイエンス」と題したイベントをみとみらいのイノベーション＆フューチャースペースとニーズに触れること

ダイバーシティ（多様性）を推進する産学官ネットワーク「ダイバーシティ連絡協議会KT」は7月26日、「百人百様×サイエンス」と題したイベントをみとみらいのイノベーション＆フューチャースペースとニーズに触れること

研究・技術へ参加者コメント

センターで開いた写真。同協議会のサイトに寄せられた研究・技術4件を一堂に会して、参加者130人が課題解決に向け、自由に声を寄せた。異業種のシノーション&フューチャー

のきっかけにしようとするのが目的。

金属加工の新素材開発から削減に取り組むベンチャー企業、高学歴者、高年齢者、多岐にわたった。赤いランドセルは誰のもの？というウジ

エンター研究に対し「ピロロの服は赤。うちの息子も赤ランドセルで通学」など、応援のメッセージが書き込まれた。複数の研究案件をつなげて、問題解決の方向を探る研究者もいた。

同協議会はダイバーシティの研究環境を構築するため、横浜国大と大成建設、帝人、横濱中心と大成建設、帝人の3者が中心となり、ネットワーク機関として、横浜経済局、神奈川新聞社、理化学研究所、富士通エフサスなどが参画している。

（遠藤 陽子）

**永続する企業は「地域」とともに**

井土ケ谷リビングクラブ「横浜型地域貢献企業と考える、永続する企業と地域」をテーマに、第9回井土ケ谷リビングクラブが7月29日、南区の男女共同参画センターで開かれた。企業がNPO、社会福祉法人など、さまざまな団体と手を結ぶことで、地域とともにいかに永続していくかについて考えた。

地域貢献企業認定制度の創

れた飲食物を口にし、緩いひとときを過ごす。教師には言えないこと、表面上では見えない問題を、カフエのスタッフにはボソッと話してくれる。スタッフはかすかなOSSを察知し、支援につなげる。

この日は、2012年に国内で初めて導入した大阪府立西成高校」となりカフエと、14年に始めた東立田奈高校「ぴっかりカフエ」の東西関係者が実践報告。「10代後半に対する社会の目は意外と冷たい。居場所カフエが、セーフティネットの網の目を少しでも埋める存在になれば」という言葉が印象的だった。

（SDGs横浜の挑戦）編集長 春名 義弘

設に関わった協進印刷（神奈川県川区）社長の江森克治さんが経緯について説明。「地元の人たちの幸せがうちの社の幸せにならなければ、明日はない」と、地域に根ざしたCSRに取り組みたいを話した。

向洋電機土木（南区）CH O・広報部長の横澤昌典さんは、介護、育児、自身の闘病というトリプルケアを抱えながら、テレワークやダイバーシティ経営など、動きやすい制度作りやSDGs実践に向けた。

第2部は、参加者同士いくつかのグループをつくり、自己紹介ゲームで交流を深めた写真。（春名 義弘）

### 掲示板

◇シルバードの「備え」を考える。三井住友信託銀行「横浜支店」は、SDGs企業として、8月23日、旭区民文化センターでシルバードプロジェクトを開く。

「長寿時代を良く生きて、良く逝くために」をテーマに、日本在宅ケアアライアンス事務局次長の志藤洋子さんによる講演などが行われる。

午後2時開演（同1時半開演、参加費無料。事前予約制で、申し込みは020（860）377、または同店窓口まで）